



東京多摩プロバスニュース

第 69 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2016. 11. 2.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

豊かなキャリアをこの街に活かそう！

第 147 回 定例会

日 時 : 平成 28 年 9 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

お客様 : 多摩中央警察署 生活安全課長 本田英樹氏

出席者 : 28 名(会員数 34 名)

第 148 回 定例会

日 時 : 平成 28 年 10 月 5 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 26 名(会員数 34 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的事であることとする



ごあいさつ



「時代遅れ」

上田清幹事

いつしかテレホンカード全盛の時代も忘れ去られて、今はスマートホンの時代。満員電車内でも「スマホと対話中?」といった光景が常態化し、寸暇を惜しんで熱中する不可思議な時代となりました。中でもポケモン GO にあっては、モンスターを捕らえる聖地となった公園で、昼夜を問わずの騒動が起きているようです。

一昔前の古い人間からみれば少々異様な光景ではあっても、情報化のバスに乗り遅れないようスマホとの対話や SNS での交流は、現代人にとって必須の条件となっているのかもしれませんが。

しかし、その一方では情報社会の深化がもたらす様々な弊害や懸念もあって、心身への負担から解放されたいと願う現代人も多く、スマホの利用を禁止する旅行プランまで登場する時代ともなっています。

作家の佐藤洋二郎氏は「現代人は多くの知識はあるが、それが逆にわたし達を苦しめているのではないか、わからないことは、わからないままにして生きた方が本当は楽なのではないか」と指摘し警鐘を鳴らしています。

たしかに遺伝子診断から始まって、生老病死に至る諸情報が氾濫する中で戸惑いや影響を受けることも多々あり、まさに「過ぎたるは猶及ばざるが如し」の感があるといえます。

かつて「目立たぬように はしやがぬように 似合わぬことは無理をせず……」という演歌に共感を覚えた人も少なからずあったように、時にはバスに乗れずとも無理をせず、スマホとは縁のない「時代遅れ」の道を行くのも悪い話ではないような気がしています。



多摩プロバスかるたの原画 “乞田川の桜紅葉” 山田正司会員画

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

上田清幹事

1.1. 東日本プロバス交流会

9月5日(月)、第1回東日本プロバス交流会(立川富美代実行委員長)が、事務局の東京八王子プロバスクラブ等のご尽力で京王プラザ八王子にて盛大に執り行われた。旭川PC・五所川原PCをはじめ11PCから約110名、当クラブからは倉賀野会長以下11名が参加。

1.2. 中学生俳句大会

10月7日(金)、東京多摩ロータリークラブが主催の第12回多摩市中学生俳句大会第1次選考会が開催され、市内全9中学校から応募のあった約2,700句の作品を対象に、当クラブの俳句会が協賛の一環として一次選考に協力。

1.3. 「リオ2016大会・感動ありがとう」イベント

10月17日(月)多摩市出身の女子車いすマラソンで4位となった土田和歌子選手、女子新体操団で8位となった畠山愛理選手を迎えパルテノン多摩で開催された。なお、予定されていた女子シンクロナイズドスイミングで銅メダリストの小俣夏乃選手は宿病のため欠席。当クラブから倉賀野会長以下4名が参加。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

大澤亘委員長

- 9月定例会で多摩中央警察署生活安全課長本多英樹氏による「管内の犯罪発生状況と対策について」の講話を拝聴した。 関連記事P3参照
- 9月理事会で上田幹事から提案された定例会活性化案の一つとしての「ミニ卓話」の具体案を10月定例会で上田幹事と総務委員の計3人が実演した。 関連記事P3参照
- 今年度の講話予定の講師として渡邊栄一氏(埼玉浮き城PC元会長)、藤井国男氏(川崎重工業元海外営業本部長)、大久保雅司氏(多摩市社会福祉協議会)を決定した。
- 今年度の当委員会課題の一つ「会則一部改定」につき9月12日に第1回の検討を行った。



総務委員会のメンバー

2.2. 研修・親睦委員会

秋山正仁委員長

- 鎌倉プロバスクラブとの交流については、中村委員中心となり今後の計画を立てる。(9月の理事会で了承)
- 大相撲見学については10月の定例会にて、半数以上の

賛同を得られた。初場所(1月8日~1月22日)のチケットは12月3日より販売予定。次回の定例会で申し込みを受け付ける。

3)忘年会を12月7日午後5:00より京王クラブにて開催予定。来賓については理事会で打ち合わせる。

4)年度計画は、当初立案通り実施する予定。

2.3. 地域奉仕委員会

村上伸茲委員長

今年度の中心テーマを「東京の水、多摩の水」に決めた。「水道水の水質」、「湧水・川・池、里山・公園・田圃に生息する生物と水質」など興味あるテーマがいくつもあります。まず、高村委員から「日本、多摩での問題点」を講義してもらい、委員から、問題解決の方法を提案しテーマを絞っていく。

なお、ESDに関しては、ESD授業テーマについて会員の「強み」(昨年の調査結果)からまとめ、提案する。

2.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

1)プロバスニュース第69号を11月2日(水)に発行配布。読んで楽しくかつ交流を深めていけるよう、会員各位の活動や趣味・紀行・故郷等の寄稿を期待しております。

2)ホームページの更新;9月20日に実施。

◇◇◇ 新入会員紹介 ◇◇◇

平成28年9月に入会された2名の方を紹介致します。

◇小池博氏



昭和13年生まれ。(株)東芝にて、府中事業所の技術者として低圧・中圧遮断器の試作開発、半導体製造設備の開発など斯界の先端技術開発に従事。また生産管理や工場運営の長として経営の中核を歴任。また廃棄物処理や土壌地下水浄化の業務に携わり環境問題に精通。

配電・電力・電気設備等の大学講師として若手技術者の教育に従事。一方、音楽・落語・歌舞伎鑑賞や海外旅行など多趣味で、現在「侘助」で茶道を楽しみ研鑽を積まれております。(登坂会員記)

◇滝川益男氏



当クラブ設立のメンバーの一人で、このクラブをどのように運営していくかについていろいろな提案をされ、活動をしてくれた方。一時退会されたが、この度多くの会員の囑望により再入会された。翻訳家であり、大学非常勤講師も務めてきた。以前、「世界のプロ

バス事情」という連載を多摩プロバスニュースに寄稿された。趣味はへらぶな釣り。(中村会員記)

「管内の犯罪発生状況と対策について」

多摩中央警察署 生活安全課長 本多英樹氏

管内における今年の指定重要犯罪(強盗他)の発生件数は、現在まで81件で、昨年同期の135件に比し54件の大幅減であり、全犯罪件数も977件と前年同期1,370件に比し393件減である。



このうち振込み詐欺は23件と前年同期比3件増であるが、被害金額は9,000万円と前年に比べ5,000万円増で、警視庁管内全体では件数・金額とも減少しているのに、当署は警視庁管下の全警察署の順位では下から9番目である。

被害者の年齢別では70~80歳が全体の89%、男女別では女性が94%。この数字が示すようにこの犯罪は「母さん助けて詐欺」とも言われ、手口は全く変わっていない。

対策として、管内49金融機関で65歳以上の預金者が100万円以上の預金を引き出したときは、ホットラインで警察に連絡されるようになっている。また管内80以上のコンビニで5万円以上の電子マネーを購入したときも同様である。

最近でもこの通報に基づいて高額のお金を引き出したお母様を署員数名が数時間かけて説得した結果、息子さんとの連絡が取れ、被害を未然に防いだ事件があった。我々は犯罪捜査の効率より管内の市民の方々に絶対に被害に遭わせないことを第一の目標としているので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

定例会でできるだけ多くの会員に発言してもらい定例会の活性化を図るため、これまでも一人の会員が自分の趣味や研究などについて発表する「卓話」や「3分間スピーチ」、一つのテーマについて会員全員参加の「座談会」などが行われてきたが、今期は更に3人が15分ずつ語る「ミニ卓話」案が提案された。そこで早速10月の定例会で提案者の上田幹事と総務委員会メンバーがその具体案を試行することとした。

■「秋はスズメバチにご注意を!!」 上田清会員



① 9、10月はスズメバチにとっては繁殖の時期で神経質になっているので注意が必要である。過去10年間に全国で男性170人、女性43人がスズメバチに刺されて死亡しており、その80%が60歳以上である。

② スズメバチには16種類あるが、日本に生息するもののうち特に危険なのは、キイロスズメバチとオオスズメバチである。

③ 刺されないための注意としては黒色を避け白色の服装と帽子が必要。手で払うのは絶対避ける。また、ミツバチの針は釣り針と同じ形で刺すと抜けずミツバチは死んでしまうが、スズメバチの針は形が違うため何度でも刺してくるので要注意。

④ 万一刺された時の応急措置としては、速やかにその場を離れると共に傷口の周辺をしばって毒液を体内から排出し、傷口を水洗いするなどして冷やし、その上で病院へ行く。

■「古希の富士登山報告」 鈴木達夫会員

古希を迎えた年、日本一の山・富士山にウォーキングクラブの仲間5名(男3名、女2名)と1泊2日で8月末に登山を挙行了。事前に数回高尾山に登るなどしてこの日に備えた。朝8時、富士急バスで富士5合目(2,300m)へ。

そこから先は高山病を避けるためゆっくり一步一步登り、8合目で山小屋に泊まる。女性は酸素ボンベを使用するなどして体調を整えた。

翌朝2時起床、手が届きそうなくらい満天の星の中を歩き、茜色に染まった雲海から上がる太陽は感動的であった。

全員が登頂(3,776m)に成功。更に1周3km、約1時間半のお鉢巡りに挑戦して下山。6合目で1名が疲労で歩行困難となったが、都合良く乗馬用の馬が待機していたので、その馬に乗せてもらい助かった。



■「こどもの目」

古澤靖雄会員



①「目は口ほどにものをいう」という諺があるが、目には自分の感情が現れるのは事実である。自分は現役時代営業として日本各地を回ったが、どこでも相手の目を見ながら商売の話をした。これは相手との意思疎通を図るうえで大切なことであった。

②これまで当クラブの出前授業として10年間そろばん教室を行ってきた。その生徒数は累計4,500人に上る。そこで感ずることは、こどもたちの理解力が家庭環境や社会環境に影響されているのではないかと。これを理解するためには「老いては子に従え」の諺に従い、こどもたちとの接触を深め、濁っていないこどもの目で物事を見る必要があると思う。

③また、おもちゃ病院の仕事にも13年従事して約3,000人のこどもたちと接触してきた。こどもたちに物を大切にすることを覚えてもらうことが人を大切にする事に繋がるからである。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

乗鞍・高山吟行会紀行

登坂征一郎会員

10月13日(木)~14日(金)、「からまつ」主催の吟行会(20名参加)が催され、銜国会から岡野一馬会員と筆者が参加。朝8時貸切りの観光バスで新宿を出発。中央高速道に入り、主宰由利雪二先生から「吟行で出会いやすい季語」をもとに吟行会の心得などのご指導を頂く。車窓には秋の日差しに甲斐の遙かな山々が煙る。

秋のどか甲斐の山々昼寝せり 流馬

休憩の諏訪湖 SA では、湖を眺め乍ら手帳片手に作句に余念がない。

秋浅しわかさぎ舟の見当たらず 流馬

遊覧船の航跡白し水の秋 爽風

バスは松本から梓川沿いに山道を登る。「風穴の里」で休憩の後、乗鞍高原に向かう九十九折をひたすら上る。

曲がる度迫り来る山薄紅葉 爽風

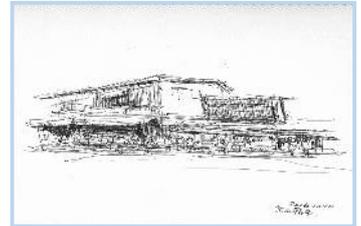
昼食は乗鞍高原一ノ瀬牧場でバーベキュー。編集長石川春兎先生に準備して頂いた山ほどの肉や野菜を鉄板の上に並べる。煙の洗礼を受けながらも、ビール片手に焼けたところから頬張って鱈腹堪能。食後、吟行に入る。しばし高原の静寂の中、清冽な瀬が心地よく響く。

夕暮は釣瓶落し。「ヴィラ乗鞍」に宿る。白濁の硫黄温泉を楽しむ。夕食は、宿手作りの野菜と塩焼きのいわな、旬の松茸等々秋の味覚を堪能。地元の美酒も頂戴。ほろ酔い気味のところ、本旅行の大イベント句会の開催。道々作句

した中から各自5句を提出。選句は5句、披講に入る。その結果「からまつ集」の選者田辺麗さんが最高得点で優勝。続いて石川春兎さん……。

2日目、7時に宿を出発、乗鞍岳に向かう。三本滝から乗鞍エコーラインを通る。眼下に峰々が浮かぶ雲海が広がる。三方を2800m級の魔王岳・大黒岳・富士見岳に囲まれた火口跡の畳平に到着。這松の緑が美しい。暫し山頂の景観を楽しむ。畳平から乗鞍スカイラインを通り飛騨高山に向かう。曲がりくねった急峻な山岳道路を一気に下る。

高山は朝市や古い町並が名高い観光地。到着するや否や一斉に朝市に向う。宮川朝市は外人観光客でごった返しの盛況。手作りの土産物や野菜等が並び、売子は外国語で打打発止の対応。岡野会員は老舗の前でスケッチ……(下の絵)。更に陣屋前朝市に向かう。また宮川に架かる朱の中橋辺りから、国選重要伝統的建造物群保存地区「古い町並」「高山市制記念館」等を見学。



13時帰途につく。安房トンネル経由で梓川沿いに出て松本 IC から高速に乗る。車中、雪二主宰から、日本語の基礎中の基礎という「いろは」の起源と変遷について興味深い講義をして頂く。十三夜の月が右に左に動いて車窓を覗く、18時半に新宿に無事到着。三々五々家路に着く。

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

1. 多摩市「長寿を共に祝う会」

堀内陽二会員

今回多摩市文化団体連合(文団連)は多摩市民協働指定委託事業「平成28年度長寿を共に祝う会」の業務を受託することになり、早速実行委員会を立ち上げ会の企画・運営・進行等を担当することになりました。毎年多摩市役所健康福祉部高齢支援課より、市内75歳以上の市民及びその家族に「長寿を共に祝う会」への招待状が送付されました。10年ほど前から私達夫婦宛にも送って頂いていましたが、今回はお誘いを受ける側でなく案内する側でした。



9月24日(土)にはパルテノン多摩大ホールに約千名の来場者をお迎えしました。

プログラムは第1部(午前)と第2部(午後)に分け、阿部裕行市長のご挨拶、次いで実行委員長(小生)の挨拶。そして、まずは、子供たちによる見事で威勢のいい和太鼓の演奏を皮切りに次々と12の出演団体による歌や踊り・音楽演奏・詩吟・民謡や落語もあり、華やかで賑やかな演技の御披露が続き、最後のしめくりはハワイアン・フラダンスショーで、これまたかわいいチビちゃん達のフラが加わり、大いに皆さん喜ばれたことでした。

総勢百名に及ぶ裏方を務められた皆さん、朝早くから事

前の設営準備作業は勿論で、来場の高齢の方々へのサポート・出迎え・案内や車椅子対応等々、多くの協力団体の皆様・学生さん達・市民ボランティアの方々の献身的で労を惜しまぬ仕事ぶり、終了後の後片付け作業、夕方遅くまで本当にご苦労様でした。

2. 永山フェスティバルに多摩ダンディーズ出演

中村昭夫会員

私の所属する男声カルテット・多摩ダンディーズが9月17日永山フェスティバルに出演。少しでもダンディーにお見せするようにと上下黒シャツ・黒ズボンにネッカチーフを首に巻きハットをかぶったスタイルで出演しました。今回は歌謡曲を主体の曲目を独自の編曲をしてピアノ伴奏付で演奏しました。曲目は「津軽海峡冬景色」「冬のリビエラ」「氷雨」「恋のバカンス」など聴衆の人たちに御馴染の曲が多かったため、演奏毎に大きな拍手をもらい、最後の「お祭りマンボ」では手拍子をあわせて演奏を一緒に楽しんで頂きました。私たち演奏をする者にとって聴衆の皆さんが楽しんでもらい「とても良かったです」という言葉をかけてもらえることが大きな喜びです。



カルテットの皆さん(右端が筆者)

3. 「お水茶のお手前」

小西加葉子会員

9月18日京王聖蹟桜ヶ丘店7階の煎茶茶道具展示会場にて、添釜を担当。暑い時季ならではのお手前を社中総出で披露した。先ず冴えた緑の硝子の器に冷水を湛え、茶葉の「平茶入れ」は銀朱と蝦茶の秋の色合いの硝子製、茶を計る「仙媒」、扇面台に載せる煎茶茶碗もクリスタル硝子等、初めて拝見する設えに見所多く緊張した。

また火を使わぬ席だからと、卓の角に小指ほどの炭を、赤い敷物の上に積み重ねて炭飾りをした席主の心入れが優しい。菓子は女房詞で散歩の意味を表す「おひろい」という銘の生菓子で、白隠元豆の餡入りでした。ふと煎茶の祖黄檗宗隠元を思いうかべ楽しく賞味。二煎のお水茶を、甘露々々と喫し、お手前さんの挨拶に、返事を忘れる程おいしかった。お嬢さんのお手前、お母様の童子(お茶を運ぶ係)、お父様お正客という席もあり終始和やか。倉賀野・神谷・澤会員もお越し下さり、計8回も入替をして、おもてなしをされたといいました。

お煎茶は、元々文人志向の高雅な茶味と、豊かな詩情が季節ごとに設えられる非日常的な席です。小西会員の茶歴の深さを垣間見ることができ、すがすがしい余韻を胸に退席した。

(阪東熙子会員記)



4. 映画「子供たちの涙」

中村昭夫会員

多摩市国際交流センター主催、多摩市、オランダ大使館後援にて、砂田有紀監督脚本の映画「子供たちの涙」が、7月10日ヴィータホールにて上映されました。物語は第2次大戦中のインドネシアで、インドネシア系オランダ人と日本軍人の間に生まれた混血の子供たちがオランダに住みながら日本人の父親を捜すという実話です。

終戦後、父は日本に引き揚げ、母の母国オランダでも「敵国の子」と蔑まれた彼らは、自分は何者かを知ろうと父にひと目会いたいとの思いが募った。彼らの思いを知り協力を名乗り出た元日本人兵士のところに、百通を超える依頼状が寄せられ、子供らの何人かは元兵士たちの協力により父の兵士仲間や親戚から、父親の人となりを知ることができたという。

この映画はインドネシアの物語ですが、日本でも全く同じようなことがあったことを思い出させてくれました。

終戦後、アメリカ人兵士が進駐してきましたが、一部の兵士と日本人女性の間に多くの子供が生まれました。駐留期間が終わると兵士は帰国してしまい、女性と子供たちは日本に残されました。私が子供の頃近所にもこのような子供がいて日本人の子供たちから「混血児」と苛められていました。私は小学生でしたが、苛めている子供

たちに「そんなことをしてはだめだ」と叱ったものでした。恐らく、混血の日本の子供たちも大人になってアメリカにいる父親捜しをしていたのではと思います。

8月、終戦記念日を迎え、このような戦争の悲劇もあったということ思い出して頂ければと思います。

◆◆◆ 私の故郷 ◆◆◆

我が故郷～早川町

秋山正仁会員

南アルプスの懐に抱かれた山梨県南巨摩郡早川町は日本一人口の少ない町(1,125人)。昭和35年には人口10,000人でした。東京から中央道甲府南ICより約1時間、清流早川を上流に向かってご案内します。

合併60周年で平成28年に竣工した早川町新庁舎の手前左の坂道を上ると赤沢の宿場、身延山・七面山の信仰によって栄えた「講中宿」が集中、歌人若山牧水も訪れている。早川の上流に左奥に雨畑湖のヴィラ雨畑、雨畑硯は有名で松本清張の小説「考える葉」で題材にしています。

また、早川を上流に向かうと町民広場があり、毎年5月3日に山菜祭りがあり、特に榎の芽、蕨、独活などが販売されます。この日は県内、東京、静岡から6,000人以上の来場者で賑わっています。会場近くの川には、やまめピアもあります。



更に上流に向かうとヘルシー美里温泉があり、私が昭和28年に卒業した母校(元三里村立中学校)の木造校舎を活用した、町営の保養・研修施設です。



その上流を上ったところの上空が、リニア新幹線の鉄橋の予定地です。甲府方面より早川の渓谷の空中を通過し静岡～長野～名古屋へと……。早川町ではリニア新幹線の工事関係者が10年間300人～400人程度の人口が増加することを町長は願っているところです。もう既に町内に仮設事務所が設置されて着々と準備中です。

さらに上流の西山温泉には、藤原真人が発見したという温泉で、千三百年の歴史を刻む日本最古の旅館705年創建の「慶雲館」があります。また、758年この地を訪れた孝謙天皇が湯治の後、更に8年間滞在したという「女帝の湯」等があり、歴史を秘めたヒーリングスポットです。

上京して55年、故郷には感謝でいっぱいです。早川町より上京しているメンバーの親睦と友好のために設立された在京早川会も31年を迎えました。また70歳より78歳まで毎年温泉ホテルで中学の同級会の推進とか、また今年もふるさと納税でまちづくりを応援します。

◇◇◇ 私の趣味 ◇◇◇

「和紙ちぎり絵」

神谷真一会員

やわらかく素晴らしい色に染められた色々な種類の和紙を使います。手本によって一つ一つ丁寧に手でちぎったり、時にはハサミ鉄筆なども使って仕上げていきます。段々進んでいくと手本は参考までで、自分の好みに合わせて仕上げてゆきます。毎月一回の教室では時間が足りず家に持ち帰り後の作業になり、約一日半～二日程度要します。和紙をちぎってノリで貼って作りますが、ノリの硬さなど和紙の厚みによって変えていきます。季節の花、風景、静物などの題材を進めてゆきます。

講師の岡本町子先生は 90 歳に近く日本で初めてちぎり絵を広めた先生です。和気あいあいの雰囲気のある教室、私はその中で楽しんでます。今年 6 月で 7 年目になりました。最近目が弱くなってきましたので眼鏡を二つ使い分けています。



菜の花畑



滝

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

9 月誕生日を迎えられました！



左から秋山正仁・鈴木達夫・登坂征一郎・増山敏夫各会員

10 月誕生日を迎えられました！



左から藤崎喬子・中村昭夫各会員

ちぎり絵は最初が肝心で遠近感を出すための工夫を先生の指導の下で作ります。先ずバックの景色からはじめ少しずつ中間の景色に、そして近くに移って作成してゆきます。途中の手直しは、貼った和紙を取り除き貼りかえます。

今年 9 月初め、京王聖蹟桜ヶ丘店 5 階 AB 館連絡ブリッジギャラリーにて展示会が開催され、私は作品 4 点を出展しました。その 4 点を紹介します。自分では 7 年間製作してきましたが、大半はまだ満足できず未完成のレベルと思っています。



湖畔の秋



雪あかり

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

○今年は、これまで大型台風、地震多発でしたが、幸いなことに多摩は何事もなく、会員協力の下、第 69 号をお届けできました。

○巻頭言のスマホ云々誠に同感、論じたい課題と痛感。

○3 ページの「卓話」で詐欺被害の件数に驚き。「ミニ卓話」の項には、喝采を惜しみません。3 会員共、声量ありスピードあり、聞き入る面々から質疑応答盛んで、会議室は、活気に満ち溢れ盛況。雀蜂の実物を見ながら黒い髪は狙われるが、当クラブではその心配なさそうの下りで、顔見合せ和やかムード。古希の歳の登山、高尾山で体力付けて、無事ご来光が拝め、お鉢巡りもできおめでとう。4,500 人の両眼だから 9,000 の汚れなき目に、慈愛を込めて 10 年教えたこと、泣きそうな不安顔の子を笑顔にさせて 13 年、人柄を象徴する秀逸な文に感激。

○「吟行」は少々欲張った行程だが、そこはそれ、ネイチャーワールドに身を置いたから生まれたスケール大きい発句。参加者 2 名は淋しい……。

○故郷を描ける人は幸いな方、西山温泉慶雲館は建物が大好きで 20 年位前、筆者度々宿泊、懐かしい。

○「ちぎり絵」は、センスと根気が無くてはできぬ技、7 年継続に敬服。これからもご精励を……。

(広報委員 阪東照子会員記)